

令和 3 年 6 月 6 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00830

研究課題名(和文) 20世紀日本の長期療養型疾患の歴史 ハンセン病・精神疾患・結核の比較統合的検討

研究課題名(英文) History of Long-Term Cures of Patients in Twentieth-Century Japan

研究代表者

鈴木 晃仁 (Suzuki, Akihito)

慶應義塾大学・経済学部(日吉)・教授

研究者番号：80296730

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,200,000円

研究成果の概要(和文)：ハンセン病と精神疾患に関しては、熊本の恵楓園、東京の王子脳病院、日本陸軍の傷病兵の精神疾患について、病院が保存する患者の症例誌から詳細なデータを分析することができた。医療者だけでなく、また患者だけでもない、医療者と患者の相互作用が重要であったことが示された。また、医療者も患者もより広い要因に影響されていた。両者にとっての音楽、患者が暮らす家族、地域、医療者にとっての科学技術などがそれにあたる。

結核に関しては、残念ながらそれにあたる資料がなく、これからの課題として残されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究は20世紀の日本における「疾病の長期的療養」のための施設が、国際的な特徴と日本独自の性格の双方をもつことを明らかにした。ハンセン病や精神疾患への対応には、欧米流の政策を実施しつつも日本の個人の形成、日本の共同体の性格などがそこに刻み込まれている。

このような長期的療養が大きなヒントとなるのが、現在でも流行中の急性疾患であるCovid-19が明らかにしつつある「基礎疾患」という概念の理解である。Covid-19時代は急性疾患であるが、一般の人々は無症候であることが多く、高齢者や基礎疾患にかかっている場合は重症や死に至ることが多い。基礎疾患という概念は現代社会と歴史研究をつないでいる。

研究成果の概要(英文)：Hansen's Disease and mental illnesses have allowed historians to analyze several major issues. Instead of the development of medicine by itself, nor of the experience of the patients, the relationship between the doctor (and other nursing staff) and the patients was important. Doctors and the patients were also affected by wider issues. Musical therapy incorporated the interests of both side; the family and the communities of the patients were crucial; science and technology was important for the doctors. As for tuberculosis, this project has so far failed to find rich patients' records. We shall think about how to get an archive for tuberculosis and other infectious diseases.

研究分野：医学史

キーワード：医学史 精神医療 ハンセン病

1. 研究開始当初の背景

近代日本の医学史研究においては、いくつかの疾病を中心に、新しい方向に発展する研究が見られていた。19世紀のコレラの対応に関しては一定の業績があり、日本の公衆衛生が成立して近代化のプラスとマイナスの側面が明らかになっている。一方で、ハンセン病、精神疾患、結核の三つの疾患については、コレラなどの流行とそのコントロールとほぼ同じ時期に大きな動きがあったが、これらの疾病の問題の解決は長い期間にわたり、コレラの公衆衛生の短期の解決とは別の脈絡の歴史的な分析が必要であった。

また、コレラやペストなどは、日本では大都市中心の急性感染症であったが、ハンセン病・精神疾患・結核は、全国に広まった長期性の慢性疾患であり、医療者の側だけでなく、その地域や社会と結びついた形で、患者とその家族や共同体や文化・社会が重要であった。

さらに、ハンセン病・精神疾患・結核の患者を収容する仕組みは、病院という近代医療の軸である制度を導入する日本の特徴と深く結びついていた。病院への移行という、それまでの長期的な療養の場であった家族とは別の空間が作られるという特徴である。そのような場が構成されるメカニズムが問われ始めていた。

2. 研究の目的

20世紀日本で成立・発展した長期療養型の施設で治療とケアをされた慢性疾患であるハンセン病・精神疾患・結核の三つの疾患について、個別疾患モデルを越えた比較統合的な分析を行い、日本の医療と社会と文化のトータルな歴史に位置付ける。これらの疾病における、医学・社会・表象の三つの側面に関して重点的な疾病間の比較検討を行い、欧米・欧米の植民地・日本の植民地などでの状況についての国際比較を行う。三つの疾病に対する多層的な対応が、同時代とその後の日本の医療と社会と文化に与えた影響を検討する基本的なアイデアを作り出す。

また、現在の新しい医学史研究の最も重要な研究ツールは、ローカルな研究である。その疾病にかかった患者、その疾病を治療する医療者、患者に関して重要な交渉や決定をして病院に収容するかどうかを決定する家族たち、患者の滞在をどのように捉えるかに関して重要な役割をはたす地域など、非常に多様な要素を分析する作業である。また、これらの医療者、患者、家族や共同体が作り上げるメカニズムが、疾病ごとにどのような特徴があるのかも重要である。大都市と村落は違うのか、ハンセン病を受け入れることがすでに重要な作業となっている地域においてはどのような特徴があるのかなどは、大きな問題であった。このローカルな視点を多くの研究者が共有するものとした。

3. 研究の方法

そのような背景に基づき、以下のように研究体制をつくった。

- (1)研究プロジェクトを三つにわけ、ハンセン病、精神疾患、結核に区分した。
- (2)それぞれの部門が、それぞれの疾患に関する軸になるアーカイブズを持ち、それらをアーキビストたちが整備・管理し、歴史学者たちが研究・分析をして、その成果を発表していく仕組みを作り上げた。
- (3)その研究の成果をプロジェクト内で発表し、対外的な発表へと発展していくメカニズムを作り上げた。
- (4)研究が開始した段階ですぐに、三つの疾患を比較統合的に見る共通の枠組みを構成員の間で議論して完成させる。その枠組みに応じて、それぞれの疾患について、公刊された史料(医学論文や疾患を主題とする文学作品など)と、それぞれの患者を長期療養した施設に遺された史料を分析する。疾患ごとの研究は、研究メンバーが共有するウェブサイト上发表され、コメントを通じて常時枠組みを再考する。定期的に年に2回以上の研究会を開催し、それぞれの領域の研究を深めていく。研究の最終年度には、日本語と英語の論文集を出版する準備をする。

4. 研究成果

研究成果としては、ハンセン病と精神疾患に関しては、初めて読まれるタイプの史料と多くの学者たちが出会い、それらを組織的に分析し、統計的な集計と分析を行うという重要な出発点となった。熊本の恵楓園、東京の王子脳病院、千葉の戦傷者資料など、重要なアーカイブズの整理と研究が行われた。特にアーカイブズの整理が、患者の家族、出身地域、現在の人間関係などを明らかにした。患者自身の行動、家族と地域の重要性、会社や軍事集団における秩序の重要性などが明らかにされた。ハンセン病と精神疾患に関しては、非常に重要な成果をすでに数多く出版している。

一方で、結核を分析する部門は残念ながらまだ始まっていない。これに関する大きな理由は、結核に関する資料の入手するために努力したが、現在のところ入手と利用が困難なためである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計62件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 鈴木 晃仁	4. 巻 98
2. 論文標題 精神医療の構成体と<創作> - 戦前期東京の精神病院の症例誌を読む -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本病跡学雑誌	6. 最初と最後の頁 4~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki Akihito	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 A Review of Eye Eye Nose Mouth and Reflections on the History of Art and Psychiatry in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Creative Arts in Education and Therapy	6. 最初と最後の頁 25~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15212/CAET/2019/5/4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木 晃仁	4. 巻 96
2. 論文標題 Hisao Ishizuka, Fiber, Medicine, and Culture in the British Enlightenment (2016)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英文学研究	6. 最初と最後の頁 68~72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 廣川 和花	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 日本の医療アーカイブズとハンセン病関係資料の研究利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 18~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akira Hashimoto	4. 巻 30
2. 論文標題 The present state and statistical observation of mental patients under home custody', by Kure Shuzo and Kashida Goro (1918)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 History of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 240 ~ 256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0957154X18818045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 雅浩	4. 巻 55 (1)
2. 論文標題 精神疾患の流行に関する社会学的研究(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 埼玉大学紀要 (教養学部)	6. 最初と最後の頁 51 ~ 70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24561/00018734	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akihito Suzuki, Akinobu Takabayashi	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Life, Science, and Power in History and Philosophy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society	6. 最初と最後の頁 9 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/18752160-7338333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akihito Suzuki	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Public Health, Laboratory Experiment, and Asymptomatic Carriers in Japan, ca. 1920-1950	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society	6. 最初と最後の頁 39 ~ 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/18752160-7338190	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Eri Nakamura	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Psychiatrists as Gatekeepers of War Expenditure: Diagnosis and Distribution of Military Pensions in Japan during the Asia-Pacific War	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society	6. 最初と最後の頁 57～75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/18752160-7339316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akinobu Takabayashi	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Medical Technology in Use: A History of Clinical Thermometry in Modern Britain and Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Science, Technology and Society	6. 最初と最後の頁 17～37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1215/18752160-7347472	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenichi Ohmi, Akihito Suzuki	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 Evaluating the impact of the 1918-1920 influenza pandemic in Pre-War Imperial Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Science Diliman	6. 最初と最後の頁 76～102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sweta Koirala, Masayuki Nakano, Hiroaki Arima, Shouhei Takeuchi, Tomo Ichikawa, Takayuki Nishimura, Hiromu Ito, Basu Dev Pandey, Kishor Pandey, Takayuki Wada and Taro Yamamoto	4. 巻 37820)
2. 論文標題 Current health status and its risk factors of the Tsarang villagers living at high altitude in the Mustang district of Nepal	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Physiological Anthropology	6. 最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40101-018-0181-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松岡 弘之	4. 巻 21
2. 論文標題 小川正子の晩景：近代日本のハンセン病隔離政策と臨床医（2017年大会報告）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 市大日本史	6. 最初と最後の頁 54～73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高林 陽展	4. 巻 78(1)
2. 論文標題 正気と狂気のあいだーコルニー・ハッチ精神病院火災事件（1903年）の表象をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 95～116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本 明	4. 巻 119
2. 論文標題 日本の近代精神医療史研究からの精神科臨床へのフィードバック	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 870～876
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 光平 有希	4. 巻 日本研究
2. 論文標題 呉秀三の音楽療法とその思想的背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本研究	6. 最初と最後の頁 95～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15055/00006791	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計89件（うち招待講演 26件 / うち国際学会 22件）

1. 発表者名 Akira Hashimoto
2. 発表標題 Mental Health Legislation and Eugenic Thought in Modern Japan
3. 学会等名 XXXVIth International Congress on Law and Mental Health (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIN Chang-Geon
2. 発表標題 Forming A United Front Against Western Medicine : Medical Scientists and Kampo Doctors in Japan 's Wartime
3. 学会等名 15th International Conference on the History of Science in East Asia (ICHSEA 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YAMASHITA Mai
2. 発表標題 History of the Acceptance of Team Nursing in Japan: The Impact of GHQ-led Nursing Reform
3. 学会等名 The 3rd Japanese-Croatian Inernational Conference " Technology Changes and Society" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoyuki Goto
2. 発表標題 Historical Analysis of the Japanese Psychiatric Beds Supply-Social Defense, Treatment, and Social Welfare
3. 学会等名 15th International Conference on the History of Science in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 Veterans and Their Children in Postwar Japan
3. 学会等名 Symposium on Traumatized Community and Mental Health: Trauma Caused by the Second World War and its Care (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村 江里
2. 発表標題 近現代日本における戦争とトラウマ : 1931 ~ 1995
3. 学会等名 第18回日本トラウマティック・ストレス学会 シンポジウム「戦争とトラウマについて考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 光平 有希
2. 発表標題 日本における音楽療法の歴史的展開
3. 学会等名 武庫川女子大学生生活美学研究所2019年度秋季シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高林 陽展
2. 発表標題 イギリスにおける精神医療史とアーカイブ
3. 学会等名 第22回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 日本のハンセン病アーカイブズとその研究利用の可能性
3. 学会等名 第22回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 逢見 憲一
2. 発表標題 住民基本台帳人口および国勢調査人口を用いた都道府県別年齢調整死亡率の比較検討
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 逢見 憲一
2. 発表標題 わが国の1959-94年におけるインフルエンザ学童集団予防接種率の推移
3. 学会等名 第83回日本健康学会(旧称：民族衛生学会)総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野上 玲子、原田 寿真
2. 発表標題 明治期に入所した患者関連文書から見る九州療養所(菊池恵楓園)
3. 学会等名 第91回日本ハンセン病学会総会・学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mai Yamashita
2. 発表標題 The Nursing History Of The Japanese Red Cross Society For Disabled Veterans in World War II, Japan
3. 学会等名 AAHN 35TH Annual Conference, American Association for the History of Nursing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Hashimoto
2. 発表標題 The History of Modernization of Psychiatry on Japan's Peripheries: Taiwan and Okinawa
3. 学会等名 First Joint Conference of The Asian Society of the History of Medicine (ASHM) and History of Medicine in Southeast Asia (HOMSEA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Hashimoto
2. 発表標題 Yoshin' in (Yang-Shen-Yuan) and Psychiatry during the Japanese Rule in Taiwan
3. 学会等名 「殖民醫學再権：本質與定義的思考」學術研討會（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 光平 有希
2. 発表標題 明治期音楽療法の諸相
3. 学会等名 日本音楽療法学会中国支部第25回講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 Broken Soldiers in the "Emperor's Army": War Neurosis and Military Psychiatry during the Asia-Pacific War
3. 学会等名 The 7th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine: Technologies of Self-Care, Screening, and Surveillance (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 Broken Soldiers in the "Emperor's Army" : Medical/Social/Individual Recognition of Trauma during and after the Asia-Pacific war
3. 学会等名 Dialogue NJI Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoyuki Goto
2. 発表標題 The History of the Development of Psychiatric Beds in Japan
3. 学会等名 Winter School on the History of Psychiatry at the University of Sydney (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SHIN Chang-Geon
2. 発表標題 Formation and Development of the Self-Image of Japanese Kampo Medicine
3. 学会等名 4th TUDOKU Conference 2018・Transnational Perspectives on Medicine, Healing and Body: Cases from Japan, Korea and Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木 晃仁
2. 発表標題 精神医療史における症例誌 - トータルな医学史とその可能性
3. 学会等名 第90回日本ハンセン病学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木 晃仁
2. 発表標題 精神障害とジェンダー 20世紀前半東京の精神病院における症例誌の分析から
3. 学会等名 第67回日本西洋史学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 日本における医療アーカイブズの現状と課題 ハンセン病資料を念頭に置いて
3. 学会等名 第90回日本ハンセン病学会・学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣川 和花
2. 発表標題 Modernizing Doctors, Practice, and Community Medicine: Through the Lens of General Practitioners in the Meiji Period
3. 学会等名 The Meiji Restoration and Its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋本 明
2. 発表標題 Medical and Social Approaches to Alcoholism in Post-WWII Japan
3. 学会等名 International Research Symposium "Alcohol, Psychiatry and Society", (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋本 明
2. 発表標題 教育講演 日本の近代精神医療史研究からの精神科臨床へのフィードバック
3. 学会等名 第113回日本精神神経学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤 雅浩
2. 発表標題 精神疾患言説における戦争と神経 近代日本の新聞報道を中心に
3. 学会等名 埼玉大学人文社会科学部研究科学系2017年度連続シンポジウム・ワークショップ 第1回「言説とイメージの歴史学と社会学 戦争と近代日本」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見 憲一
2. 発表標題 The change of Japanese vaccination system and its influence on the excess mortality from influenza: mandatory mass schoolchildren vaccination or optional vaccination?
3. 学会等名 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 逢見 憲一
2. 発表標題 1889～2014年のインフルエンザ超過死亡と公衆衛生 ウィルス循環，経済水準，予防接種の役割
3. 学会等名 日本医史学会平成29年5月例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kaori Iida, Akiko Kubota
2. 発表標題 The ABCC's research and public relations: Historical analysis of papers preserved in archives [ポスター報告]
3. 学会等名 The 2nd International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eri Nakamura
2. 発表標題 Psychiatrists as Guardians of War Finance: Distribution of Military Pensions during and after the Asia-Pacific War
3. 学会等名 AAS-in-Asia Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 松岡 弘之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 ハンセン病療養所と自治の歴史	

1. 著者名 野上 玲子、原田 正孝、尾崎 元昭、宇野 公男、岡野 美子、新盛 英世、後藤 正道、山下 美奈子、垣花 英成、下地 洋昭、大和 豊子、畑野 研太郎、加納 達雄、江川 清文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 発行：平成29年度国立ハンセン病療養所研究<改訂版ICD-10を用いたハンセン病療養所入所者の病歴管理> 研究班	5. 総ページ数 71
3. 書名 国立ハンセン病療養所治療研究報告書（ハンセン病療養所の医学的資料保存と利用についての研究、ハンセン病療養所入所者の病歴管理に関する研究、改訂版ICD-10を用いたハンセン病療養所入所者の病歴管理）	

1. 著者名 Junko Kitataka, Akiko Hyodo, In-Sok Yeo, Wen-Ji Wang, Yu-Chuan Wu, Theodore Jun Yoo, Akihito Suzuki, Eri Nakamura, Yi-Jui Harry Wu, Howard Chiang, Hsuan-Ying Huang	4. 発行年 2018年
2. 出版社 聯經出版	5. 総ページ数 484
3. 書名 精神科学與近代東亞	

1. 著者名 後藤 基行	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 216
3. 書名 日本の精神科入院の歴史構造--社会防衛・治療・社会福祉	

1. 著者名 Thomas Muller編, Akihito Suzuki, Akira Hashimoto, Julia Grauer, Uta Kanis-Seyfried, Livia Prull, Sebastian Kessler, Heiner Fangerau, Monika Ankele, Stefan Wulf, Waltraud Ernst, Celia Di Pauli, Lisa Noggler, Eric Sidoroff	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Franz Steiner Verlag	5. 総ページ数 243
3. 書名 Zentrum und Peripherie in der Geschichte der Psychiatrie	

1. 著者名 Thomas Muller, Uta Kanis-Seyfried, Bernd Reichelt, Renate Schepker編、Thomas Muller, Uta Kanis-Seyfried, Bernd Reichelt, Renate Schepker, Akira Hashimoto, Marc Spohr, Udo Frank, Tatjana Asnina, Katharina Witner, Klaus Schepker, Paul-Otto Schmidt-Michel, Natasja Pilz, Heike Engelhardt, Jochen Tenter	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Verlag Psychiatrie und Geschichte	5. 総ページ数 399
3. 書名 Psychiatrie in Oberschwaben: Die "Weissenau" bei Ravensburg zwischen Versorgungsfunktion und universitärer Forschung	

1. 著者名 中村 江里	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 戦争とトラウマ: 不可視化された日本兵の戦争神経症	

〔産業財産権〕

〔その他〕

近代日本の精神疾患・結核・ハンセン病の歴史[MATH] 公式サイト https://math-history.com/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣川 和花 (HIROKAWA Waka) (10513096)	専修大学・文学部・准教授 (32634)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 江里 (NAKAMURA Eri) (20773451)	広島大学・社会科学研究科・准教授 (32612)	
研究分担者	光平 有希 (MITSUHIRA Yuki) (20778675)	国際日本文化研究センター・総合情報発信室・特任助教 (64302)	
研究分担者	市川 智生 (ICHIKAWA Tomoo) (30508875)	沖縄国際大学・総合文化学部・准教授 (38001)	
研究分担者	高林 陽展 (TAKABAYASHI Akinobu) (30531298)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究分担者	橋本 明 (HASHIMOTO Akira) (40208442)	愛知県立大学・教育福祉学部・教授 (23901)	
研究分担者	久保田 明子 (KUBOTA Akiko) (40767589)	広島大学・原爆放射線医科学研究所・助教 (15401)	
研究分担者	愼 蒼健 (SHIN Chang-Geon) (50366431)	東京理科大学・工学部教養・教授 (32660)	
研究分担者	佐藤 雅浩 (SATO Masahiro) (50708328)	埼玉大学・人文社会科学研究科・准教授 (12401)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野上 玲子 (NOGAMI Reiko) (60537942)	熊本大学・病院・非常勤診療医師 (17401)	
研究分担者	後藤 基行 (GOTO Motoyuki) (70722396)	立命館大学・先端総合学術研究科・講師 (34315)	
研究分担者	福田 真人 (FUKUDA Mahito) (90208968)	名古屋外国語大学・世界教養学部・教授 (33925)	
研究分担者	山下 麻衣 (YAMASHITA Mai) (90387994)	同志社大学・商学部・准教授 (34310)	
研究分担者	松岡 弘之 (MATSUOKA Hiroyuki) (30877808)	岡山大学・社会文化科学研究科・講師 (15301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	逢見 憲一 (OHMI Kenichi)		
研究協力者	原田 寿真 (HARADA Kazumasa)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高野 弘之 (TAKANO Hiroyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関